

※以下は要約文となりますので、詳細は配信動画等をご覧ください。

【令和８年度９月補正予算案】

75 億円の増額補正。

通常補正 30 億円。

- ・物価高騰対策（国の交付金を活用） 6 億円。
- ・通常補正 9 億円。
- ・災害復旧（令和 8 年 6 月、7 月の大雨被害の復旧関係） 15 億円。

財政的な補正 45 億円。

- ・決算剰余金の積立て 33 億円。
- ・国庫事業の精算等 12 億円。

● 物価高騰対策

中小事業者支援 第 8 弾!! NEXT 賃金 UP プロジェクト（2.8 億円）

賃上げと投資の促進をセットで、好循環を実現しようとする事業。

延べ 1,820 事業者に投資総額約 43 億円を支援した。その結果、賃上げの動きは着実に拡大。1 件当たりの投資額も増えている。

第 8 弾は、中小企業向け補助上限を 200 万円から 400 万円に引き上げる。従業員がいない事業者支援も増額。国の業務改善助成金への上乗せ支援も増額。さらに、賃金 UP 支援チームによる伴走支援や中小企業診断士の派遣も増額。

農業者への支援（2.5 億円）

足元の負担軽減と収益力強化を一体的に支援していく。

米価が下がり、物価高騰でコストは上昇しているため、生産コストが価格を上回る状況。米は 1 年かけて作るものであり、工業製品のように需給調整はできない。生産地として危機感を持っている。

- ・米麦等生産農家の燃油費を支援（1.3 億円）

佐賀県は、米・麦・大豆・たまねぎなどを作付けし、耕地利用率は 39 年連続日本一。

乾燥施設の利用頻度が高く負担が大きいため、乾燥用燃油購入費の支援を行う。

- ・施設園芸農家の収益力強化を支援（1.2 億円）

- ・ハウスリース料の利子負担軽減
- ・伴走支援
- ・共同選果場のコスト低減：利用料を下げる取組

● 通常補正分 主な個別事業

佐賀県立大学（仮称）整備事業

建設費を予算化したもの。校舎建設に係る全体事業費は、建設工事と工事監理費等を合わせ 146.6 億円。令和 8～11 年度の継続費で組んだ。

今年度は、工事前の準備事務として 600 万円を措置。工事着工に必要な事務を進める。令和 9 年 4 月に着工し、令和 11 年 4 月に開学。

市町立小中学校スポットクーラー応急整備支援事業（1.5 億円）

小・中学校の体育館は避難所に指定されることが多いが、空調の設置率が低い。大町町のひじり学園中学部体育館と武雄市の武雄中学武道場の 2 棟だけ。

現在、市町が本格空調の設置を検討中。それまでの緊急的な支援制度として、市町が小・中学校の体育館・武道場にスポットクーラーを置く場合に支援する。

各学校体育館に 1 台としているが、実際に避難所が設置された場合、各学校から避難所にスポットクーラーを運んで、複数台設置することも可能になる。本格空調の導入後も併用が可能。

子どもたちが学び育つ環境を改善し、併せて災害の際には、空調が効いたところで避難できるようにしたい。

九州新幹線西九州ルート 環境アセスに向けた技術検討会検証支援事業（1,100 万円）

7 月 17 日、当時の国土交通省の水嶋次官と二者合意を締結。令和 9 年度から行うアセスに向け、本年度は技術検討会で検証することも合意。

本日 8 月 26 日に第 1 回の技術検討会を開催。もう一回開催して事前調査の在り方のようなものを決定し、事前調査を国土交通省と鉄道・運輸機構が行う。年明け以降、調査結果の検証や課題の洗い出しをし、アセスに結び付けていく。

技術検討会は、国土交通省、鉄道・運輸機構、佐賀県の 3 者で実施する。今回の予算は、技術検討会においてコンサルタントや学識経験者から佐賀県の技術面に関してサポートしていただく予算。

技術検討会の内容は、できるだけ県民の皆さんにお示ししながら進めたい。

その他主なもの

経済対策（昨年度の国の補正予算から繰り越し分）

- ・新興感染症対策の強化
- ・介護施設における防災減災対策の推進

その他

- ・軽費老人ホームの運営を支援

- ・税総合情報システムの改修
- ・SAGA スタジアム維持更新等

【知事定例記者会見】

令和 8 年熊本地震 佐賀県の被災地支援

熊本地震について、被災地支援をまとめた。

人的支援として職員を派遣。補正予算では説明していないが、派遣に関する経費として 4,200 万円を計上。

県だけでなく、市町、DMAT、JMAT など、様々な団体がそれぞれ支援をしている。

佐賀県型の強みは、機動力のある CSO とともに行う支援。CSO と連携し、職員約 40 人が現地で活動中。佐賀県が被災した時にも、そのノウハウを活かせるよう、現地でがんばっている。

<歴史に想いを馳せ、継承する 佐賀城本丸北側エリアが生まれ変わります>

城内エリアでは、デザインの力を駆使して整備を進めてきた。整備により、様々なイベントで活用するなど、本来の公園の機能を生かせるようになった。

今回は、佐賀城本丸北側エリアの整備。放送局の跡地はインクルーシブ公園へ。駐車場は北側に集約し、すっきりした形になる。このエリアは、令和 10 年 3 月～5 月まで、SAGA GREEN JAM（緑化フェア）の会場になる。フィールドの 1 つとして楽しんでもらいたい。

インクルーシブ公園のため、車椅子でもそのまま遊べる。多くの人に楽しんでもらえるように遊具や設計を検討していく。

名称は、「二の丸広場 “にこまる”」と「本丸西の堀広場」。段差をなくし、子どもたちにも喜んでもらえるゾーンにしたい。

明日 27 日は、佐賀城公園東濠で Water Terrace Challenge を実施。佐賀城公園が、長い歴史と文化が息づくようなエリアになるよう順次整備していく。

<冒険はいつだって想いのままに ロマンシング佐賀 2026>

10 月 12 日にスタート。コラボして 12 年目。12 リージョン（地域）、連携店舗は 200 店以上になった。

今回のテーマは、受け継がれる本物の“技”。ロマ佐賀鍛錬道場として、体験型の取り組みを県内各地で展開する。

佐賀、唐津、武雄では、佐賀ラーメンの新メニューを展開。限定ラーメンをぜひご賞味いただきたい。

大阪、東京ではシシリアンライスやみつせ鶏などの佐賀の食を展開。クラフトビールは全国展開する。

新マンホールのお披露目など、見どころも満載。

<世界に誇る伝統文化・佐賀酒を未来へ 酒米新品種「佐賀酒 73 号」>

佐賀県では、県産米購入支援や酒米生産支援と併せて、酒米生産者を大切にする取り組みを行ってきた。

猛暑でも品質低下の少ない新たな品種の育成を望む声があった。9 年かけて県の農業試験研究センターが「佐賀酒 73 号」を開発。

通常、酒米は酒米同士を掛け合わせて品種改良するが、「73 号」は食用米の「さがびより」を祖母に持つ。フルーティーで、大粒で割れにくく、稲が短くて倒れにくい品種になった。

「73 号」の愛称は、SAGA×WOMAN EXPO 2026 で酒蔵の女性メンバー 3 人に決めてもらった。その愛称が「さがなみ」。佐賀らしい風景や、新しい波を佐賀から起こして世界に波及したいと決定した。

今後、この酒米を県が正式に「さがなみ」として応援し、世の中に売り出していく。来春、県内の酒蔵から「さがなみ」の新酒が発売予定。世界を席巻していきたい。

巨大メジロ今年も出現！ TOSU NESTIVAL 2026

鳥栖駅東側の開発を県、市と民間で取り組んでいるプロジェクト。

目玉は高さ 10 メートルと巨大なメジロと卵。卵の中では、いろんな遊びができる。昨年より線路側に設置し、鳥栖駅からも見える位置にした。

地元企業からも支援を受け、マーケットやステージを開催。また、サガン鳥栖、SAGA 久光スプリングスのご協力で、スポーツ体験もできる。

JR も含め連携し、鳥栖駅東側エリアのポテンシャルを解き放っていきたい。

第 2 回 SAGA パラスポ 2026 開幕

予選が厳しくて全障スポに出場できないとの声があり、昨年佐賀でパラスポを開催した。好評のため、今年も実施する。新たにソフトボールを追加。

様々なプレゼントや体験コーナー、マルシェなども実施する。

佐賀県は、パラスポーツを支援していく。皆さん応援に来ていただきたい。